

小さな しんせつ



「小さな親切」運動生駒支部情報・第57巻第663号

1・2月合併号

令和7年1月1日
「小さな親切」運動
生駒支部
生駒市北新町11番3号
南都銀行生駒支店内
☎74-1131
☎630-0245
定価 100円

この人のことば

まだまだ捨てたものではない

壱分小学校長 城野 聖一

今年の夏に「硬膜下血腫」による緊急手術を受けました。脳に血が溜まった状態の時には、様々な症状が出ました。

その一つに、普通に歩いているのに急に歩く速度が速くなり、何かにつかまって止まるか、転倒して止まるしかできなくなるというものがありました。駅や道端で幾度か転倒してしまいましたが、近くにいる人から「大丈夫ですか。手を貸しましょうか。」と声をかけていただいたり、「水分とられますか。」とペットボトルを差し出されたりしました。高校生からも手を差し伸べてもらいました。

自分の体に異変を感じ、少し心細い思いをしている時に、声をかけていただいた方々の温もりと思いやりを感じました。そして何より高校生が声をかけてくれた時には「これからの社会もまだまだ捨てたものではない」と改めて感じました。

「小さな親切」10か条の⑤ 紙くずなどをやたらに捨てないようにしましょう。

この人の作品



「寿」

真言律宗管長
総本山山西大寺長老
松村隆誉

新年のご挨拶

代表 玉置成一

新年あけましておめでとうございます。皆様にはご家族揃っての良いお年をお迎えのことと存じます。日頃は小さな親切運動の活動にご支援とご協力を頂き厚く御礼申し上げます。ところで世界中に大流行したコロナウイルス感染症もかなり落ち着き、小さな親切運動の活動も昨年度から活動が再開

され、今年度は従来の活動に戻ったことはたいへん嬉しく思います。

さて小さな親切運動生駒支部の大きなイベントの1つであるクリ-



ンアップならキャンペーンは、昨年度まで9月第1日曜日に実施していました。ところが9月は猛暑が続いたために、今年度から11月23日の祝日に変更になりました。ただ急な変更のために参加者は昨年よりは減少しましたが、参加者の皆さんにとっては大変ご多忙の中、また貴重な祝日にもかかわらず参加して頂き熱心に清掃活動に取り組む姿には感謝の気持ちしかありません。そして生駒市領家副市長様、生駒警察署山本署長様にもご参加いただき盛り上げて頂いたことは本当にありがたく思いました。

また作文コンクールでは今年度から従来の児童生徒へ直接のチラシ案内配布からスグールでのスマホ配信に変わり、応募数が激減するのではないかと心配をしていました。ところが結果的には昨年度

よりは少し減少しましたが、小中で331編の応募数があり安心すると共に応募してくれた児童生徒の皆さんにはたいへん感謝しています。さらにその中から小学校高学年の児童の作文が中央本部で入選したことは本当に嬉しく思いました。また作文の内容では、友だちや家族、地域の人々から受けた親切や自分が行った親切の体験だけではなくて、山登りの自然体験や生ごみ処理機の製作、さらに電車の中での視覚障害者の方をサポートしている方の行動からいろいろな親切に気づき親切の大切さや良さなどを今後の生活に活かしていきたいという積極的な思いがよく伝わってきました。そして11月9日の作文発表会では、1位入賞した3名の児童生徒がしっかりと発表する姿に感動を受けました。なお、発表会までに多くの作文を審

小さな親切 協力事業所

皆さんと共に
幸せをいのる

山本瓦工業株式会社

生駒市谷田町362
TEL (73) 2520

査して頂いた先生方には、ご多忙の中を多くの労力を割いて頂いたことに対する感謝の気持ちで一抔です。皆さんの親切な気持ちと協力のおかげで発表会が開催できたことに厚く御礼申し上げます。さらに今回は敦賀市の小さな親切運動敦賀支部から高畑代表と山本事務局長のお二人にご出席頂き発表会を盛り上げて頂いたことに深く感謝いたします。

なお、小さな親切運動生駒支部には10カ条のスローガンがあり、日頃から我々はそれに基づいて活動しています。このスローガンは人に対する思いやりや感謝の気持ちなどの内容で、誰でもどんな時でもできることばかりです。そして人と人とが繋がっていくために必要なことばかりです。親切をする人は「思いやり」、親切を受ける人には「感謝」、これが広がっていくことが誰でも暮らしやすい明るい世の中を作っていくと思えます。ただ言葉では簡単に言えますが、実行となるとなかなかできないものです。それだけに日頃からこのスローガンを頭の中に入れ

て少しずつでも実行して頂くことが大切だと思います。今年もこの運動を一人一人がいろいろな場所で呼びかけて広がっていくことを祈念して年頭のあいさつといたします。

あけまして
おめでとうございます

役員・常任委員一同（敬称略）

〈顧問〉小紫雅史（生駒市長）
吉村善明（市議会議長）
宝山寺（門前町）

〈相談役〉中川克己（山崎町）
辻 康彦（上町）
安井宏一（萩の台）

〈代表〉玉置成一（鹿ノ台西）
〈副代表〉宮本しげ子（生駒台南）
森本正一（萩の台）

〈監事〉西田真也（北新町）
尾山弘子（高山町）

〈常任委員〉有山京子（高山町）、
稲葉早由利（辻町）、稲葉史子
（辻町）、今中和子（谷田町）、今
中豊子（谷田町）、作島美与子
（谷田町）、竹田嘉子（上町）、辻

中賀代（辻町）、林 昌弘（北田
原町）、樋口清士（さつき台）、福
中眞美（ひかりが丘）、堀部泰史
（北新町）、前谷百々子（小明町）、
吉水静代（東旭ヶ丘）

2024 クリーン アップなら キャンペーン

11月23日(土)奈良県下一斉に「ふるさと美化運動」が実施されました。例年は9月の第1日曜日に実施されておりましたが、昨今の猛暑により開催時期が変更され今年度は11月開催となりました。

開催日が変更されたこともあり、例年に比べ参加者が少なくなりましたが、60名程ご参加いただき、精力的な清掃を行いました。





ご参加の皆さまありがとうございました。

なお、来年度は 2025年10月26日(日)の開催を予定しています。
(南都銀行生駒支店 森田美穂 記)

「小さな親切」作文 コンクール1位の作品

小学校高学年の部

山登りの思いやり

あすか野小学校5年 こと 山 西川 心葉

ぼくは、今年の春、鳥取県に行きました。旅行の目的は、大山に登ることでした。大山には、去年の8月にも、登山ガイドさんと一緒に登りました。でも、台風で天候が悪かったため、7合目までし

か行けませんでした。今回は、ガイドさんに教えてもらったことを思い出しながら登山しました。「一步一步を確実に。」と、常に意識して歩くと、けが一つなく頂上まで登って、下山することができました。山では、何が起こるか分からないので、山にいる間はずっと、少しきん張して、不安でした。でも、同じ山を登っている人たちから親切にしてもらったおかげで、最後まで歩くことができました。

登っている間は、とても苦しかったです。頂上まで行けるか不安になった時、すれ違う人たちが、「おはよう。」「がんばっているね。」と、あいさつをしてくれました。知らない人からもらった言葉の中に、「一緒にがんばろう。」という気持ちが込められていると感じました。すると、心がぼかぼかして、少し元気になりました。だから、ぼくも「ありがとう。一緒にがんばろう。」の気持ちを込めて、みんなにあいさつをしました。また、ぼくよりも早く登って下りてきた人が、「上の天気は晴れでしたよ。もう少し行けば、ゆるやかな道に

なりますよ。」と、頂上までの情報を教えてくれました。自分には関係ないはずなのに、ぼくに情報を伝えることで、手助けをしようとしてくれているのだと思いました。ついに、ぼくが頂上まで行って下山する時、登る人とすれ違いました。その時、ぼくは、道をゆずってもらいました。山のマナーでは、登る人が優先です。だから、ぼくは先に行ってもらおうと待っていました。登る人に、「お先にどうぞ。」と言われて、「なんでだろう。」と思いました。その時、ぼくの後ろから、たくさんの人たちが来ていることに気づきました。だから、危なくならないように、「お先にどうぞ。」と、通してくれたのだとわかりました。そして、「最後まで安全に帰るぞ。」と勇気がわいてきました。ぼくは、「ありがとうございました。」と、伝えました。

山登りでは、山が危険だからこそ、周りの人を思いやるのが大切だと思いました。周りの人を大切にすることが、山登りのきん張やしんどさを和らげたり、山の危

険を少なくしたりするのだと思います。山登りは、登る人たちの親切の重なり合いで、安全に楽しくすることができます。街での生活も同じだと思います。あいさつをすると、声をかけ易くなります。すると、困っている人には、勇気づける言葉をかけたり、助けたりすることができます。相手のことが分かれば、ゆずり合うこともできます。おたがいを思いやる気持ちは、山も街も、安全に楽しくします。ぼくは、ぼくの学校で、ぼくの街で、安全にくらしたいです。

第49回
「小さな親切」運動本部
作文コンクール
入選おめでとう

あすか野小学校5年
 西川心葉さん
 題：「山登りの思いやり」

今年度の全国応募総数は28,138編（小学校：5,750編、中学校：22,388編）でした。（昨年：27,769

編）

そのうち、小・中合わせて30名が入賞、小・中各50名が入選でした。西川さんは小学校の部にて入選の榮譽に浴されました。

ここにご報告し、今後ともますます勉学にご精進されなすよう期待しております。

「小さな親切」作文
コンクール受賞の喜び

小学校低学年の部

鹿ノ台小学校1年 たにおたお
 このたびは小さなしん切作文コンクールでい学年のぶで1いにえらんでくださりありがとうございます。

たまきだいひょうのはなしから、このしんさはたくさんの方のどかとじかんをかけて、3どもおこなわれたとききました。また、コンクールはいろいろな人のしん切でなりたっているという言ばをきいて、ぼくはNHKのチョコちゃんにしかられる！というばんぐみでした「ごちそうさま」のいみを

おもい出しました。ぼくは「いただきます」とおなじ、いのちをありがたくちょうだいします・ちょうだいしましたというかんしゃのいみだとおもっていました。しかしほんとうは、いろいろな大ぜいの人たちがきょう力しあって、しょくざいをあつめてはしりまわったことへのかんしゃの言ばだったのです。これはもはや「しん切のラリー」そのものです。じぶんだけが気づいていないだけで、しん切はすぐそばにもっとあるのかもしれないですね。それに気づける大人がふえると、せかいはへいわでやさしくなりますね。

小学校高学年の部

あすか野小学校5年 西川心葉
 ぼくは、初めて山に登る時、登山は一人だけの楽しみで、自分にチャレンジするものだと思っていました。でも、実際は、親切の重なり合いで成り立っていることに気づきました。大山に登った時、ぼくは、つかれていても周りをはげましたり、あいさつをしたりする親切に出会いました。だから、

この時、うれしかったことや気が付いたことを作文に書こうと思いました。

作文を書く時には、考えたことを丁寧に思い出して、くわしく書こうと気を付けました。そして、ふだん生活している街の中で、自分がしてもらった山での親切を、どうやって実行することができる考えました。

発表会の日、ほくは、みんなの前で作文をろう読しました。それまで、書いたことを伝えられるように、何度も読む練習をしました。だから、たくさん人の前で、作文の内容についてほめてもらったり、大切に表しょうしてもらったりして、とてもうれしかったです。ありがとうございました。そして、これからも、小さな親切を見つけて、自分で考えて行動しようと思いました。

中学校の部

上中学校1年 宇陀^{こうせい} 洸世

僕は、初めに優勝したと聞いたとき、一瞬冗談だと思い信じられませんでした。そして先生に紙を

もらったら、もう本当にビックリしました。それから先生と朗読の練習をすることになったので練習しました。僕は朗読（音読すらも）苦手だったのでだいぶ苦戦しました。当日となり、上中の友達がいたこともあり案外緊張しませんでした。しかし、小学生の子どもの作文のレベルが高くて少しプレッシャーが感じられました。優勝トロフィーも大きくて308作品の中で1番で努力した甲斐もあり、とてもうれしかったです。

作品を書く時は、まず今までで何を親切と感じたことは何かを書き、その中で最もうれしかったことをピックアップしました。そして、その親切で何がどううれしかったのかどういうことをそこから感じたかなどのことを言葉に書き替えることを意識しました。それで終わりじゃなくて、この出来事を活かして何が分かった、学んだのか。次はどのようにするべきなのかを書きました。何があったのか（出来事）→それに対して何を思ったのか（心情）→次からはどのようにすれば良いのか（行動・反省）

の流れを基本として書くのを大事にしました。

貴重な体験をありがとうございました。

会員紹介

（敬称略）

◎生駒台南・宮本しげ子グループ
〈特別会員〉日野紀代子（あすか野）、宮本しげ子

〈維持会員〉奥山富子・藤橋秀子・勢渡恵美子・神谷恵美・高宮央（生駒台南）、上原夏子・宮崎美和子（真弓）、鳥取桂子（あすか野）、藤井康子・岩本サカエ（橿原市）、中谷博幸・岡努（田原本町）、上山洋子・高島美知子・宮代トシ子・畠中和子・松田多恵子（奈良市）、平岡興子（平群町）、松原禮子（あすか野）

◎〈団体会員〉宝生会

◎辻町・辻中賀代グループ

〈維持会員〉大西トシ子、西條隆子、田口利彦、辻中賀代、檜木寿美子、森襄

◎今中豊子グループ

〈維持会員〉今中豊子、植田尚江、岡島恭子、神野芳子、武元マサエ、宮平美智子